

九州大学大学院数理学府
2020年度修士課程入学試験
基礎科目問題

- 注意 • 問題 [1][2][3][4] のすべてに解答せよ.
- 以下 $\mathbb{N} = \{1, 2, 3, \dots\}$ は自然数の全体, \mathbb{Z} は整数の全体, \mathbb{Q} は有理数の全体, \mathbb{R} は実数の全体, \mathbb{C} は複素数の全体を表す.

[1] A を次の 3 次正方行列とする.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

以下の問に答えよ.

(1) tPAP が対角行列となるような 3 次直交行列 P と tPAP を求めよ. ただし, 行列 X に対し, tX は X の転置行列を表す.

(2) 3 次元列ベクトル $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{R}^3$ に対し,

$$(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = {}^t\mathbf{x}\mathbf{y}, \quad (\mathbf{x}, \mathbf{y})_A = {}^t\mathbf{x}A\mathbf{y}$$

とおく. $\mathbb{R}^3 \setminus \{\mathbf{0}\}$ 上で定義された関数

$$f(\mathbf{x}) = \frac{(\mathbf{x}, \mathbf{x})_A}{(\mathbf{x}, \mathbf{x})}$$

の最大値と最小値を求めよ. ただし, $\mathbf{0}$ は零ベクトルを表す.

[2] 次の3次正方行列

$$A = \begin{pmatrix} -6 & 5 & -8 \\ -1 & 1 & -2 \\ 3 & -2 & 4 \end{pmatrix}$$

に対し、 \mathbb{R} 上の3次元列ベクトル空間 \mathbb{R}^3 の線形変換 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$ を

$$f(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$$

と定める。以下の問に答えよ。

- (1) \mathbb{R}^3 の1次元部分空間 V_1 で、 $f(V_1) \subset V_1$ となるものをすべて求めよ。
- (2) \mathbb{R}^3 の2次元部分空間 V_2 で、 $f(V_2) \subset V_2$ となるものがただ一つ存在することを示し、その基底を与えよ。
- (3) 自然数 n に対し、 A^{6n} を求めよ。

[3] 実数列 $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$ に対して, $\sum_{n=1}^{\infty} a_n = 0$ が成り立つとする. 以下の問に答えよ.

(1) 部分和を $s_N = \sum_{n=1}^N a_n$ とする. 任意の自然数 N と任意の実数 r に対して, 次の等式が成り立つことを示せ.

$$\sum_{n=1}^N a_n r^n = (1-r) \sum_{n=1}^N s_n r^n + s_N r^{N+1}$$

(2) $0 < r < 1$ なる任意の実数 r に対して, $\sum_{n=1}^{\infty} a_n r^n$ は収束し, 次の等式が成り立つことを示せ.

$$\sum_{n=1}^{\infty} a_n r^n = (1-r) \sum_{n=1}^{\infty} s_n r^n$$

(3) $\lim_{r \rightarrow 1-0} \sum_{n=1}^{\infty} a_n r^n = 0$ を示せ.

[4] 平面 \mathbb{R}^2 の標準的な座標を (x, y) とする. 正の実数 p に対して, \mathbb{R}^2 の部分集合 Ω_p を

$$\Omega_p = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid |x|^p + |y|^p \leq 1\}$$

で定め, 次の 2 重積分を考える.

$$A_p = \iint_{\Omega_p} (x^2 + y^2) dx dy.$$

以下の問に答えよ.

- (1) A_1 の値を求めよ.
- (2) A_2 の値を求めよ.
- (3) 極限 $\lim_{p \rightarrow \infty} A_p$ の値を求めよ.